

会 議 録		令和 6 年 2 月 25 日 作成	令和 9 年 3 月 末 日 廃 棄
会議名	京都府木津警察署協議会（令和 5 年度第 4 回）		
開催日	令和 6 年 2 月 21 日（水曜日）		
時 間	午後 1 時 30 分から午後 3 時までの間（90 分）		
場 所	京都府木津警察署 署長室		
出席者	光橋会長、山本副会長、奥委員、岸田委員、浦本委員、有馬委員 矢島委員、ジョナサン委員、服部委員 （欠席 岩木委員、宮本委員） 計 9 人		
	署長、副署長、会計課長、警務課長、生活安全課長、地域課長、刑事課長、 交通課長、警備係長、広聴・相談係長 計 10 人		
諮 問 事 項	災害対策について		
会 議 内 容	<p>1 会長挨拶 司会 副署長</p> <p>2 署長挨拶</p> <p>3 諮問事項の決定 司会 会長</p> <p>木津警察署からは、今回 2 つの諮問事項（案）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 街頭活動による犯罪検挙と抑止対策 ○ 災害対策 <p>を策定してもらったが、本年に入り能登半島地震があったところであり、今回は「災害対策」を諮問事項として決定したい。</p> <p>※ 出席委員の賛同を得て「災害対策」を今回諮問事項に決定</p> <p>4 地域課長報告</p> <p>本年度諮問事項とならなかった「街頭活動による犯罪検挙と抑止対策」について、地域課長から委員に報告を実施した。</p> <p>5 協議</p> <p>諮問事項説明</p> <p>災害対策について～警備係長</p> <p>【委員】高山ダム周辺の道路で、昨年 7 月頃土砂崩れがあり、今もまだ通行止めのみである。</p>		

会 議
内 容

奈良県内で道路を通行中の車が土砂崩れに巻き込まれる被害の報道もあった。

南山城村地域では、昨年、南山城水害から70年目の区切りの年とのことで、各種注意喚起等されたが、高齢者の単身世帯等が増加しており、災害時、本当に対応出来るのか心配している。

地元の人把握する情報が、行政や警察と上手く共有出来ればと考えている。

【警察】お話の道路については、まだ復旧に時間がかかると行政から聞いている。

今回の能登半島地震では道路が寸断され、京都府警の部隊もなかなか被災現場に入れなかった。

京都府警では、府内で震度5強の地震を認知すれば警察官は所属に自主参集して対応する。

災害発生時は、各署で情報収集の上、都道府県警察本部を経由して警察庁に報告がなされ、応援派遣の有無等の検討がされる。

警察では、災害時、早期の実態把握と報告が求められており、平素からあらゆる事象を想定した訓練を行っている。

皆様にも出来る協力をしていただけたらと考えている。

【委員】先ほどの説明を聞き、警察が各種災害対策の訓練をしていただいております。頼もしく思った。

私は地域の自主防災の会長をした際、自主防災の計画等を策定し、当時は消防等からもお褒めをいただいたが、策定から今、10年程が過ぎると、住民の誰もその計画を見ていないように思う。

防災の啓蒙には工夫があるのだと思う。

【委員】私たちは実際に震災を経験したことがなく、いざ経験したことがないことを経験した時、どう動いたら良いのかよく分からないので教えてほしい。

【警察】地震に関しては、まずシェイクアウト訓練という初動対応訓練がある。

シェイクアウト訓練では、いざという時、瞬時に「まず低く、頭を守り、動かない」を身につける訓練である。

また、水害に対しては、市町村で作成しているハザードマップを確認する、市町村で実施している災害訓練に参加をしてもらえればと思う。

【委員】防災では、災害を想像する力が必要だと思う。

先日の能登半島地震発生の際、携帯電話が、緊急地震速報を伝える警告音が鳴ったが、どうすれば良いか反応が出来なかった。

会 議
内 容

鳴った時どうするか、想像をしておかなければならない。

【委員】私も、先日の緊急地震速報を伝える警告音が携帯電話から鳴った時、フリーズするだけだった。

また、警告音が鳴った時、外国人としては、どこに連絡をすれば良いのか分からなかった。

また、警察では英語や他の言語に対応をしてくれるのだろうか。

【警察】災害時、警察・消防・行政、どこに連絡をしても、相互に連携しており対応する。

当署でも英語対応が出来る警察官がいるほか、通訳アプリを通じた対応も行っている。

市町村では、英語版のハザードマップも作成しているので、それらも確認願いたい。

【委員】精華町消防も、京都部隊の一員として能登半島地震に出動したが、道路が寸断等され、なかなか救助活動に取り掛かれなかったと聞いている。

また、二次避難の施設確保も行われたが、被災者がなかなか二次避難に応じない点等も課題と聞いている。

行政だけではなく、個人も日頃から備えが必要だと考える。

【委員】私は新興住宅地に居住しているが、近所の方と挨拶等するが、それ以上のつながりを感じない。

精華町の旧村地区では、自主防災会があり、備品があり、訓練もしていると聞いている。

そのような地域のつながりが大切だと考える。

【委員】警察では避難をする際、防犯対策についてはどのように考えているのか。

【警察】この度の能登半島地震においても治安の悪化が問題視されていると聞いている。

私は阪神大震災の被災現場に出動したが、当初は救助活動が中心であったが、時間経過と共に、防犯等の警戒活動にシフトしていった。

【委員】先ほど、木津警察署の大型商業施設における巡回活動による防犯効果について説明があったとおり、制服警察官の警戒活動は被災場所等での防犯対策が有効であると思う。

【委員】災害が発生した際、地域のつながりが大切だ。

木津川市の下川原地区では、昨秋、炊き出し訓練を行ったほか、市役所の危機管理課の方から指導等してもらった。

まずは自分の身を守り、次に共助、その次に行政や警察の支援というものがあると思う。

会 議
内 容

【委員】 警察ではドローンの活用等しているのか。

災害発生時の現場確認等で、ドローンは非常に有効だと考えるし、京都府警察に配備がなければ、ドローンを運用している会社等と連携すれば良いのではないか。

【警察】 京都府警察としては、機動隊でドローンを運用しているが木津署に配備はない。

【警察】 災害対策では、行政・消防・警察等関係機関の連携、情報共有が重要であると考えている。

当署の管轄地域は5つの自治体の管轄地域と重なっており、広域にわたる行政と一層情報の一元化が出来る仕組み等を構築していくことが理想的だと考えている。

精華町においては災害活動拠点の建設を検討されているとのことであるが、有事においては広域にわたる関係機関の活動拠点として活用出来る可能性も含めて、今後、各行政と連携を図ってまいる。

以上

第4回京都府木津警察署協議会の開催状況

